

Nippak-Shimbun

27 de Junho de 1924 N.379

Director Sack Miura
Caixa 375 R. Paulo Brasil

日伯新聞

本紙定價
半ヶ月十ミル
毎年拾八ミル

官吏の一一致を

二十四日を以て一先づ退職した、如約二ヶ月に亘つて壇州各地の邦人状況を観察した富田内務書記官は去り、去らなんだことだけは事實だといふ。更に南伯三州を縦断し一通りの邊も見て行かふといふのが夫も結構なことである、内務省へ移民課の出来る様になつたのも主として震災被害民の跡始末に困つたことに原因するが、是れども悪くはない、只外務省に移民課があり(近く局になる)内務省に移民課がありやがては農商務省にも移民課が出来るかも知れないが、そう同一問題を各省テンデに扱はなければならぬ理由は何所にあるだらう、當局者も業々しく移民課設置の競争をするにも當らない、若し對内的に活動する云ふ内務省が自ら官憲募集傳令を別途に創設して互にイガミ合ふ様送の三者を兼營するなら始めて有意義だと云へるが、左もなくして從來外務省のやつてゐる様な年温るいことを別途に創設して互にイガミ合ふ様では屋上更に屋を架するの批難は免れまい、だが、官民一致とは誰もが云ふことへ暖簾がちがふにせよ(當局者の言に依る)同一問題に對して内外事務省官吏が恰かも風馬牛の態を爲せるは不思議と云はねばならない、蓋し彼等は冷やかなものであつたのみならず督マーリン氏は日本外務省と交渉の

に取つてはお役所その物が大切であつて移民問題は二の次だと云へる、

だから互に一方が他人の畠に鉛を入れるゝものさし、隔離なき談合はナラ

本紙定價
半ヶ月十ミル
毎年拾八ミル

日本陸軍現代化

結果日佛通商條約を作製したるが陰謀を見えた、俺はギタリと少々胸に取つてはお役所その物が大切であつて移民問題は二の次だと云へる、

だから互に一方が他人の畠に鉛を入れるゝものさし、隔離なき談合はナラ

本紙定價
半ヶ月十ミル
毎年拾八ミル

必要なる數品を除く外埠低關稅を約

定せるものなり

ト妙案が胸に泛んだ、

本紙定價
半ヶ月十ミル
毎年拾八ミル

</

最近電報

(二)

蒙古の回答と日本新聞

東京來電に依れば同地の諸新聞紙は

臺に致せる日本政府の抗議書に對す

る米國の回答文に對し一齊に不滿の

意を表明しつつあり(倫敦)

蒙古の獨立宣言

在ウルガ勞農政府代表は蒙古共和國

獨立宣言の公式通牒に接せりと(モ

スコウ)

印度支那總督の奇禍

廣東來電に依れば日佛通商條約更新

の使命を帶びて日本を訪問せる佛領

印度支那總督マーリン氏は歸途廣東

に於て佛國在留民の歡迎會に臨める

席上一丈那人よりダイナマイトを投

も氏の從者外七名即死せり官權は

種の結合は子孫を劣等化する點が重

み固りて部落を作り宛ち日本の植民

地の様なものを持へて了う、丁度

肺病其他の微菌か人体内に異体を得た

の日本人は世界到る所に同人種の

此危険が甚だ多い、人或は日本人が

白人と結婚しないと言ふ、然り或

は然らん而して此場合は更に悪い即

ち風俗習慣宗教傳説一切合切世界唯

の日本人は世界到る所に同人種の

此危険が甚だ多いと言ふ、然り或

は然らん而して此場合は更に悪い即

ち風俗習慣宗教傳説一切合切世界唯

對黨からは議會の權能を侵すものだ

ナ▲ファゼンティロ君怒るまいこと

か地闇太踏んで怒つたが犬のこと下

訴へもならず其儘引揚げ矢部の所へ

ました在留半賑はりましたくさ

ましの御芳情に對し茲に改めて

厚く御禮申上げます惶しき旅立

ち到らぬ點は何卒御寛容下さい

平謝りに謝ったとか

十四日土曜日の市會で當市のパン粉

不足と其供給充實策に就て市議員オ

ルラントラド氏から提議する所あ

り結局調査會を設け適當な方法を講

述することとなりたるが全氏の言に依

ると小麦粉の不足は原料たる小麦の

損傷が多いではないか、政府は少々

ばかりの稅金を取つて貯蓄し貯蓄

する又一方インテリオールでは日本人

の珈琲栽培者は有ゆる手段で他のフ

アゼンデーロと競争し其經濟を脅や

かしてゐる伯國は珈琲に他國の競争

が居て搔きませて了ふのは更に一段

民は續々歸還しあるが彼等は今

や其方針を換えて南米を轉せんじ

既に向ふ二ヶ月間に於ける南米定期

航路船の三等船客は全部契納済みと

なり爲めに汽船會社は更に數隻の臨

時船を増配しやうとしてゐる右二ヶ

月間に於けるリオ、ボイノス行の移

船舶が荷揚けを待ちつゝある一方に

マタラグ、ブリジン等の製粉所は本

年に入りてより製造能力の半分を產

出したのみで近來になりては殆んど

休業同様の姿なり

案に依つて上陸を拒絶された北米移

損害が多いではないか、政府は少々

ばかりの稅金を取つて貯蓄し貯蓄

する又一方インテリオールでは日本人

の珈琲栽培者は有ゆる手段で他のフ

アゼンデーロと競争し其經濟を脅や

かしてゐる伯國は珈琲に他國の競争

が居て搔きませて了ふのは更に一段

民は續々歸還しあるが彼等は今

や其方針を換えて南米を轉せんじ

既に向ふ二ヶ月間に於ける南米定期

航路船の三等船客は全部契納済みと

なり爲めに汽船會社は更に數隻の臨

時船を増配しやうとしてゐる右二ヶ

月間に於けるリオ、ボイノス行の移

お暇乞

私事此度家事上の都合によりま

して本日サントス出帆の「めき

シコ丸」で歸國致することとなり

ました在留半賑はましたくさ

ましの御芳情に對し茲に改めて

厚く御禮申上げます惶しき旅立

ち到らぬ點は何卒御寛容下さい

大正十三年六月二十四日

田中貞子

全貞愛

菊水宗内

田鍋健太郎

長澤伍一

後藤貞二郎

河野電氣器具修繕所

Kaigai Kogyo Kaisha

Caixa 1082 S. Paulo

Nantos

電氣工一名

至急

電動機一切の修繕に心得ある電

氣工一名を高給にて招聘し度し

御希望の方は左記宛履歴書添附

照會あるか或は直接御面談の事

サントス市

大正十三年三月

大正十三年六月二十七日

コチア日本人會

Rua S. Francisco N. 387

Santos

士地

海外興業株式會社伯國支店

Kishimoto & Co. G.P. H24 S. Paul

Wenceslau Braz L. Copacabana

岸本泰イシエイラ商會

電話セントラル六一四八

實の生るころ

(四) 七言

實の生るころ　（四）とき男

一休此道雄の母は非常な憂鬱症の女で道雄和子兩人の事に就いても相手を好かぬので無い「自分には子がない年老いて後」云ふのが彼女の心配の標であつた。丁度姉の子の榮子が年も道雄に似寄りなのを幸。其老後を委ねんとするのであつた。

父親も可憐な妻の此の心中を察して…結婚彼等義母子の間の闇諱を望んで別に兎や斯く言はなかつた。

懇んな事で兩家の間は餘り仲も好くなく、道雄出發後一年…話は常に來つたのである。

それは父の出勤して居る某製紙會社の重役の次男栗田力から申込んだ。しき日の空想に耽つて夢の様過したが恐ろしき破壊の魔の手は爪を砥き澄して、戀に悶ゆる和子の身を、襲ひ来つたのである。

雄の兩親の仕打を飽き足らず思つてゐた父の怒は、も早鎮める事は出来なかつた、「廿にも成つてどうか判らん人を持つ…栗田の縁談は……」と反抗的の態度に出づるのであつた。

和子が急を傳へて、歸國と決斷を求めた時、おはれ、彼には萬事餘猶はなかつた。

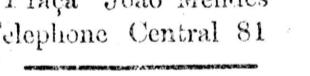
如何に和子が泣いても、もう運命の前にはどうすることも出來なかつた。泣いて願ふ母の手前、仕方無く針を呑む思ひで、栗田力に妻として誠の種…胸に新しき傷痕の蹟…其の人の居る南米に渡つたのだ。

あらう、成功を夢見た夫力に伴はれて、戀しき人…今は思ひ出すさへなかつた、執念深く取繕つて常に鐵錐を下すのだつた。

無経験、伯國に無理解と云ふのが力の失敗の因であつた。

汝等の祖国の民。
よしや汝等の祖国の境が
破れても、
外夷が胸牆を越えて
幕進して來ても、
萬里の長城は汝等のものだ。
劇的な素振りに長けた
少年だった、
頭髮を支那風に伸した
少年だった、
眼のくつきりと大きい可愛い
少年だった、
獨りでみんなを娛しませる
話好きの少年だった、
おお、わが印度洋上の旅伴よ
汝等支那の少年達よ
汝等は未だ幼い、
支那が再び人の建設に
急ぐとき
汝等も群集に混じ
「建設」への道を辿らねばならぬ
おお、汝等支那の少年達よ
汝等も同じく東洋に生れた、
亞細亞人だ。
永遠に亞細亞は汝等のものであ
おれ達のものだ、
汝等は國境を跳ね越えてゆく
勇敢な戦闘者だ、
幸福と榮華と汝等の前にあれ
汝等の耕す未開の地には
豊沃な天興の寶庫がある。
汝等の振る織の尖端に
『喜びの中華へ』と叫べ
その叫びを大なづしめ
建設へと急ぐのが
汝等の義務だ、
狼狽の漲る
亞細亞の大陸に擴ぐる
汝等の中華の國よ
いつの日が來て
『再びへの中華』を
建てんとはする、
曉は近い、けれども
陽は地平線に上らぬ、
汝等支那の少年よ
『建設』への道を走りながら

The image shows a page from a Japanese-language newspaper. The main headline reads "Pensão e Armazém de Seccos e Molhados M. Nagata". Below it, there are several columns of Japanese text, some with small icons above them. The text discusses the sun, victory songs, and a woman's desire for company.

<p>明心上</p> <p>本籍 全</p> <p>右兩名の現住所承知致したいが 知の方は御知らせ下さい 大正十三年五月三十日 在サンパウロ</p>	<p>GARAGE NORMAL</p> <hr/> <p>Tel, Cidade 56 Praça da Republica 43</p>	<p>業車勵自貸</p> <p>Garage Congresso Praça João Mendes Telephone Central 81</p> 	<p>面積 位置 全面積の七割は珈琲栽培場 す。御希望の方は下名 問合せ下さい。 パウル市郵局六八八 澤尾磯七</p>
--	--	---	---

<p>Semente de algodão da M. Silveira & Cia</p> <hr/> <p>綿種子販賣</p> <p>ノロエステ線グワイサラ驛 次販賣致します</p> <p>相馬速</p>	<p>大福旅館</p> <p>リス驛ルイス・ガーマ街</p> <p>州政府保証のボルバ式消毒 法に依り消毒した棉種子の ノロエステ地方一手販賣店 シルベイラ商店の種子を購</p>	<p>日本旅館</p> <p>ノロエステ線パウル一驛前 沖玉屋比久孟德 那霸重榮 山心平榮</p>	<p>廣島屋旅館</p> <p>鹿市コンデ街五十三 小川源右三門 電話セントラル五八二 電報セントラル一一一四</p>	<p>Egreja Japonesa</p> <p>Rua Conde Sarzedas 23 Caixa 1114 S.Paulo</p> <p>聖市牧師伊藤八十二 集會堂碑市コンデ街廿三番 郵函一一一四</p> <p>おてるねすたそん宮平市榮</p>
--	--	--	--	--

